

静岡県静岡市

静岡産業技術専門学校

～豊かな個性と専門性を併せ持つ人間教育を～

2005年10月に行われた第22回建築CAD検定試験では、2級の部で最優秀団体賞を受賞された本校。その指導方法や学校の教育にかける思いなどお伺いしましたのでご紹介します。



建築科 教諭
中居 康晴先生

建築科のご紹介をお願いします。

建築科には2学年で60名程の学生が在籍しています。本校では、単に科学的に「建築」を学ぶのではなく、文化としての建築のあり方や、自然や都市との調和、またそこに暮らす人々への快適性の配慮などあらゆる面から建築について学び、社会に貢献できる建築技術者の育成を目指しています。

そのために私たちがができる事は何かを考え、工夫し実際の授業に取り入れています。

具体的に授業の特徴とは？

授業は、基本的には学ぶものにとって楽しいものでなければいけないと考えています。楽しくないと理解も深まりませんし、知識や技術の習得も決して早くならないと考えるからです。

具体的には、1日の授業で言えば、座学だけの日は決して設けず、必ず座学と実習科目を組み合わせ、飽きのこない授業を心がけています。このようにメリハリをつけることで集中力を保つことができ、理解度もぐっと高まるんです。

また、教師陣も専任教師のほか、建築業界の第一線で活躍している経験豊富な講師が多数おります。教科書だけでは分からない実際の仕事の流れや仕組みを、様々な実例を取り上げ、学生が興味を持ち楽しく臨めるよう工夫しています。

その他にも、体験的に学習する環境作りにも力を入れています。例えば、ユニバー

サルデザインを検討するにあたり、知識や経験がないと、なかなか良いプランやデザインは創れません。そこでシニアシミュレーターによる高齢者障害者体験や車椅子試乗体験などを実施し、理解するために必要な知識を体験するんです。実際に錘や器具を身に付け擬似体験することで、健康者には分からない多くのことが理解でき、学生にとってとても良い勉強になります。これからも学生達が興味を持ち、楽しみながら勉強そして体験できる授業にして行きたいと考えています。



シニアシミュレーターによる実習。高齢者や障害者の立場が理解できる貴重な体験です。

歴史的な建造物を色々で見学されていますね？

最近では、明治村や江戸東京建物園の見学を通して住宅の歴史を学んだり、スペインやフランスの修学旅行において、アントニオ・ガウディやル・コルビュジエの建築



学校としての目標は、なによりも学生の夢をかえ就職に導くこと。ひとり一人の思いに真剣に応えるため、さまざまな教育体制が整っている。

を見学しました。どれも普段の生活の中では触れることのできないものばかりなので、学生達にとってはとても貴重な経験になりますし、この経験を有意義なものにしてもらいたいと考えているんです。

ここで必要なのは、必ず事前に予備知識としてその建築家について、あるいはその時代背景や建築物の持つ意味などを勉強することです。そうすることで実物を目の当たりにしたときの感動が全く違うんです。

こういった経験を通して個々の学生それぞれが持つ「建築」への思いや考えに対し、将来に渡り少しでも良い影響を与えられたらとても嬉しいですね。

地元の企業とのつながりが強いとお聞きしましたが？

本校では、企業の皆様とのつながりを積極的につくることにも力を入れています。

例えば、週1回地元の建設業に携わる建築家や建築設備士、また不良建築の防止にかかわる民間検査機関の検査員などを講師に迎え、社会に出た後の建築技術者として必要な素養を養っています。また、夏休みを利用したインターンシップを実施したり、設計事務所からの依頼によるアルバイト(模型作り、住宅展示場の装飾製作)などにも積極的に取り組んでいます。

これは学生に、一社会人としての人間形

成を養ってもらいたいという思いからですが、学生からも好評で、これからもこのような活動を通じて企業の皆様方との交流を深めて行きたいと考えています。



地元企業から依頼された模型制作に取り組む学生。あらゆる場面で地元の方々との交流を図っています。

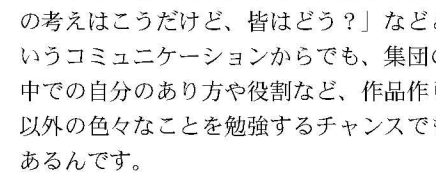
資格取得やコンテストへの参加に非常に熱心ですね？

われわれの学校は専門学校ですので、やはり最終の目標は「就職」だと考えています。資格取得で言えば、「建築CAD検定試験」も積極的に取り組んでいる試験の一つです。

この試験に合格することは当然大切ですが、実はその過程も非常に重要なんです。

それは学生が「合格する」というしっかりとした目標を持つことで意識が変わるといことです。それはどの資格試験でも同じことです。分からないところがあればどんどん質問し理解しようとする。当然知識としての吸収も早いですし、何よりも基礎を深く理解することができます。こういった学生の授業へ取り組む姿勢の変化、そういう効果も実は期待しているんです。

コンテストへの参加についても、色々な効果を期待しているのは同じです。あるコンテストに参加しようとして皆で決め、その目標に向かって一生懸命に取り組む。その中で教師と学生、また学生同士のコミュニケーションも育まれます。ほんの些細な「自分の考えはこうだけど、皆はどう？」などというコミュニケーションからでも、集団の中での自分のあり方や役割など、作品作り以外の色々なことを勉強するチャンスでもあるんです。



「賃貸住宅フェアin静岡」への出展の様子。この他さまざまな建設関連の協会主催の展示会にも積極的に出展しています。



←静岡産業技術専門学校のホームページ
(http://www.sangi.ac.jp/)



CADラボでの授業風景。2次元および3次元CADの実習を行う最新の環境が整備されています。

就職状況について教えてください。

就職については非常に良い実績を残しております。専任の就職指導員が、ひとり一人に対しきめ細かに指導したり、積極的な企業訪問により求人開拓を行うなど、教職員一体となって学生をサポートしています。しかし、わたしはそれは単なる一つの側面でしかないと考えます。

学校全体として誇れることは、われわれの学生たちに対し、地元企業の皆様から非常に高い評価をいただいていることです。

積極的に資格取得に取り組む姿勢や、それによって得られる高い専門的知識のほか、地元企業との交流も大きな理由であることは間違いありません。しかし、もう一つとても大きな要素があります。それは今までわたくしたちが送り出した卒業生たちの活躍だと考えています。

わたくしたち建築科で言えば、今年で第1期生が社会に飛び立ち8年目になりますが、その卒業生たちも各企業で経験を積み、ようやく実力も認められる世代になって参りました。そういった彼らの実社会での努力や行動が何よりも大きいのだと思います。

本校が力を入れている「専門教育と人間形成」というバランスの取れた人材育成、それが徐々に実を結んできたことを最近強く感じます。

毎年校内において、本校学生の採用を希望する優良企業が100社余り参加する「校内企業ガイダンス」を実施していますが、これも地元企業の皆様にしっかりと定着し、回を増すごとにその規模・質ともに充実してきています。

これはまさに本校学生への期待の大きさを裏付けているのだと思いますし、また何よりもの励みになります。

このような熱い期待に応えられるよう、これからもしっかりと取り組んで行きたいですね。



学内での「マナー講座」の様子。就職活動に向け、必要なマナーについて学びます。

今後の目標は何ですか？

先にもお話いたしました、やはり最終の目標は就職です。私ども教職員がすることは、学生ひとり一人の目標を実現させるために何をしなければならぬかを考え、実行することなんです。

楽しい授業や充実した設備、インターンシップや資格・コンテストへの取り組みなど、そのあらゆるものすべてはその延長線上に「就職」という目標があるんです。ですから言い換えれば何も特別なことをしているわけではないんですよ。

確かに世の中の動きや新しい情報に対し常に敏感に対応しなければならないという大きな責任を背負っているわけですが、しっかりと「目標」があるので、わたくしたち自身も大きなやりがいを感じています。学生には、この学校に備わるものすべてを十分に利用し、自分の夢を達成してもらいたいですね。そして社会に出て大いに活躍し、本校と彼らの後輩たちにまた更なる大きな財産を残していただければ、これ以上嬉しいことはありません。

あとがき

表彰審査会では完成度の高い図面が多く驚きましたが、先生方の熱心な取り組みをお聞きし納得しました。この学校の持つエネルギーはこれからも質の高い教育を実現されていくことでしょ。

卒業作品のご紹介

●テーマ「緑の丘集合住宅」



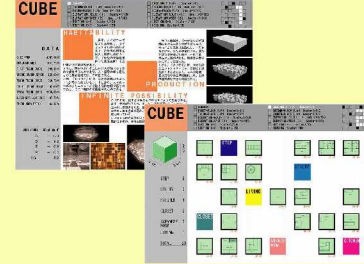
静岡市郊外の風致地区(自然保護区域)に豊かな集合住宅を建設し、高齢者から幼児にいたるまで助け合いながら暮らしているコミュニティづくりを提案した作品です。

●テーマ「静岡市旧市庁舎」



今ではほとんど利用されていない国の指定文化財に指定されている旧静岡市庁舎を静岡産業の発展に寄与できる建物に改築することを目的に、まず建物の図面をCADに複製し、模型を製作。静岡市を紹介する展示館に内装を再生する計画です。

●テーマ「CUBE」



正方形ユニットにトイレ・浴室、また複数ユニットを組み合わせ、居間・個室などを構成し、ブロック形式で組み立てていく集合住宅を提案しました。言い換えれば「月面基地」みたいなものです。